

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192200093		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・あきがせ		
所在地	埼玉県志木市中宗岡3-25-10		
自己評価作成日	平成 29年 10月 9日	評価結果市町村受理日	平成29年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成29年11月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭の園芸(お花作り・野菜作り)をご入居者様と共に体験して、季節を感じて頂いています。夏にはトマト、キュウリ、ナス、オクラ、ピーマンが採れたので、食材に入れて召しあがって頂きました。大きくなったかな、採れるかなと毎日楽しい日々でした。お花ではこの小さい花咲いたわよと一番に教えて下さり出勤するのが楽しみでした。春や秋にはお花を植えて草花を觀賞して頂いています。楽しみながら雑草を採ったりとお手伝いして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅と田園のバランスがよい閑静な地区に位置している。内部は、明るく開放的な作りになっている。地域包括支援センターが併設されており、連携が密接にとれている。開設2年目であり、職員全体で施設作りに取り組んでいる。プライバシー保護の観点より、おむつ・リハビリパンツ等は、トイレ内など共有スペースには保管せず、居室に保管している。家族との面会回数を増やすためにも、日用品等の買い物代行は行わず、届けてもらうようにしている。こうした工夫により、計画書は、全員面談の上、同意を得ている。敷地内の畑で季節の野菜作りをしている。長靴を用意し本格的に協力してくれる利用者もいる。収穫したものは、食事やおやつとして利用し、大変喜ばれている。開設時の内覧会、一周年記念パーティー・納涼祭等の行事を掲示周知し、地域住民に来訪を促す努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・安全・信念・笑顔のあるホームを作り、実践しています。	新入社員には、本部にて法人理念を、事業所配属後は、管理者により事業所理念についての研修をしている。事業所理念は、開設時に職員全員の話し合いで作成している。毎月の会議で理念の確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々とお茶のみ会を計画中、2～3カ月おきに行って行きたいと思っています。	自治会役員とは顔見知りの関係である。開設時の内覧会には、地域の方が多数来訪し歓迎された。地域の祭りのお神輿を見学したり、季節の花や野菜の差し入れがある。地域の演芸ボランティアの来訪を企画している。	開業2年目の事業所であり、地域とのつきあいはあるものの限定的である。地域のボランティア団体の来訪を促し、地域との一層の親交を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会等で話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・副会長・民生委員・オーナー様と現状のお話をし意見を聞き活かしている。	年間計画に添い、2カ月毎に開催している。家族会と同時開催し参加しやすいように工夫している。家族、町会役員・地域包括職員・市担当者にて、活動報告や困りごと・地域情報等多岐にわたり話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	志木市役所課長と連携取り合っています。	地域包括支援センターは、併設しており連携は密接に行われている。地域包括支援センターの声掛けによる地域の介護事業者の連絡会で情報交換等している。市主催の口腔ケア等の研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月会議を開き防止に努めています。	法人全体としても、身体拘束について真摯に考えており、掲示用のポスターが配布されている。事業所では、これを就業前に読んでから就業するようにしている。職員が、持回りで講師となり研修会を毎月行い、欠席者は、議事録を確認し共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月会議を開き防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから少しずつ活用できる体制作りをしていくところです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、その都度お話を聞き説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にお話しをお伺いし対応してまいります。	外出機会の増加や献立表の配布など要望に応えている。敷地内の家庭菜園では、家族より多くのアドバイスを受け、一体となり活動している。事業所内で判断難しい要望にも、本部と連携し取組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やその都度聞く機会を作っています。	会議のほか普段から意見を聞くようにし、利用者についての支援方法が話し合われている。職員発案から、三味線の演奏が行われた。本部直通のフリーダイヤルが設置されており意見を聞く体制ができている。	事業所の目標である笑顔をより引き出すため職員全員の活発な討議を行い、一層充実したレクリエーション・行事の開催を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修に参加して頂くように声かけしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宗岡ネット・志木市役所ネットの勉強会に参加して交流をもっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	勤務時にお話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々に何が出来るか考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の立場に立って理解し対応しているように話し合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の不安等に耳を傾け一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人と関わりをもてるように努めている。	知人の来訪や、年賀状等が届いている。以前よりの雑誌購読や趣味の編み物を継続している方もいる。家族による美容院やお墓参り等の外出支援を行っている。職員と近隣の商店に出かけ顔馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでレク等に参加出来る体制作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、退去が無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をしたいのか、出来るのかを把握し検討している。	生活歴や普段の言動から思いや意向の把握に努めるようにしている。また、表情や態度からも読み取るようにしている。利用者の言動・思い等は、送りノートに記入し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の状態を把握して対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態を把握して対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3・6ヶ月にモニタリング、アセスメントを開催し介護計画を作成している。	3ヵ月・6ヶ月毎に居室担当者を中心に見直している。介護計画は、フロア会議で状況確認の上、計画作成担当者が作成している。計画は、郵送等でなく面談のうえ説明している。状況変化時は、計画を再検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態に変化があった場合はその都度共有し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に安心した生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向合わせて対応している。	かかりつけ病院を継続している方もいる。提携医療機関から医師・歯科医が定期的に往診している。看護師は、毎週訪問し観察や相談を受けている。歯科衛生士が毎週訪問し口腔ケアに注力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師との情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に病院に訪問し関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者身取り研修に参加しこれから対応していきたいと思っています。まずは職員の教育に力をいれていきます。	重度化に対し入所時に説明を行っている。終末期には、指針に乗っ取り対応することになっている。提携医療機関と終末期に対する取り決めができている。看取りに対する研修を予定しており職員意識の醸成を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まず、H長に報告し対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っている。	年2回、うち1回は夜間想定で避難訓練を行っている。消防署の助言を受け実践的な避難方法を検討している。自然災害マニュアル・備蓄品も整備されている。ハザードマップを掲示し、避難場所を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日出勤時に確認をしている。	言葉かけは、状況・個人にあわせ人格・プライドを損なわない様対応している。居室入室の際、許可を得ようしている。食事提供時間は臨機応変に対応し、その人のペースに合わせるなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるようにお話を聴いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選べない人には寄り添って対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は中々一緒には行えていない。片付けは見守りしながら行っています。	テーブル拭きや片づけを手伝う利用者もいる。食前には、口腔体操、食後には口腔ケアを行っている。家庭菜園で収穫した野菜が食卓にあがり喜ばれている。また、納涼祭では、綿菓子やカキ氷は好評を得た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声かけし工夫をして摂取しています。水分も声かけて水分補給をして頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身からトイレに行かれない人には定期的に誘導し排泄の支援をしています。	チェック表を利用しトイレでの排泄を支援している。入所後、自立に改善された方もいる。夜間も時間で排泄支援をしている。相対的に自立を維持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量に気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回をペースに無理なく支援を行っています。	希望すれば毎日入浴可能である。お湯も毎回変えている。シャンプー・石鹸の持込みは、可能である。拒否の強い方には、時間帯や声掛けする職員を替えたりし対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の気持ちを尊重した支援をおこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の状態を確認しDrと相談しながら対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、楽しめる事見つけて支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様のご協力の元外出。施設の近くを散歩する機会を設けています。	季節の良い時期は、事業所の周りを散歩している。近隣の方と挨拶を交わしたり、お花をいただいたりしている。可能な方は、河川敷の菜の花を見学に出掛けている。歩行の大変な方は、庭に出るなどして外気浴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をもっている人もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のないように安全に過ごせるようにしています。	毎日、職員と可能な利用者で清掃を行っている。決まった時間で清掃を行い生活のリズムを作るよう心掛けている。壁面には、レクリエーションで制作した季節を感じる作品を掲示している。居間では、洗濯物をたたむ等の日常生活を営んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身の意向での対応をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様とご本人様の意向。	家具等も持込みは可能である。テレビ・ラジオ、筆筒、位牌、テーブル等を持込み自分の空間を作っている。居室でテレビや趣味の編み物をされている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に留意し出来る事の支援をしています。		